

2021/8/21@Zoom

## 日本における保守化・右傾化の構造研究会

柳澤協二「イラク戦争の回顧と台湾を巡る判断」コメント

西川 伸一

(明治大学政治経済学部)



同(2013)『検証 官邸のイラク戦争 元防衛官僚による批判と反省』岩波書店。

「はじめに」

「イラク」は、私の三九年間にわたる**防衛官僚としての人生の集大成**とも言えるものとなった」(vi頁)。

1

1

### 「無駄な戦争」としてのイラク戦争

「今日に至っては、「イラク戦争は、やむを得ないものだった」と総括するのが精いっぱいだろう。だが、「やむを得ない」ということは思考停止と同義であり、**無駄な戦争**を無駄のまま放置することにほかならない」(3頁)。

2003年3月のイラク侵攻から2010年8月末の撤退までの死者数：  
米軍)4000人以上、イラク人)10万人以上と言われる(15頁)

### 「9.11」からイラク戦争へ

「9.11」⇒テロとの戦いという「新しい種類の戦争」へ(27頁)

「9・11のような攻撃からアメリカ国民の安全を守る」(30頁)

★リスク・世論に抗しても信念を貫く「**ヒロイズム**」という名の蛮勇(32頁)

2

2

### 「全員が間違えた戦争」

政策決定者の発想:「万が一、攻めてきたらどうするのか」「攻撃がないと保証できるのか」

情報機関の限界:「今直ちに起こる可能性は少ない」とは言えるが、「絶対にない」とは言えない。



⇒政:「ないことが証明できない以上、あることを前提に行動すべきだ」

⇒情:「最悪のシナリオ」に向かって情報を探し解釈し直す(34-35頁)

### 「間違えた」にもかかわらず「正しい戦争」と強弁する論理

「排除された政権の悪質性を理由に戦争を正当化し続けることに、この戦争の本質的な動機が隠されている」(36頁)。

3

3



「抽象的な価値観、イデオロギーをめぐる戦争」

「最も優れた情報分析力をもってしても、常に読み間違えるリスクをはらんでいる」

理由)政策決定サークル内に共有される「時代精神」「思考の枠組み」

⇒政治指導者はリスクや世論よりこの期待に応えようとする(39頁)

### 当時の日本における政策決定者たちの「時代精神」

イラク戦争支持:「私自身の時代認識と経験から導かれた「時代精神」があった」(55頁)。「小泉官邸もブッシュ政権のホワイトハウスと同様、今さら議論するまでもない時代精神によって生み出された「空気」によって意思疎通がなされ」(67頁)

★湾岸戦争のトラウマ

4

4

### イラク戦争支持をどう説明するか

「総じて言えば、イラク戦争支持の方針は、従来の日本政府の姿勢とも、当時の国連の大勢とも矛盾するものであった」(87頁)

★国連決議に基づかない武力行使

川口順子外相: イラク戦争については国際協調ではなく「日米同盟」を国益の観点から選択した(88頁)。

⇒「同盟の選択」は自衛隊のイラク派遣を必然化  
(=「世界の中の日米同盟」)

⇒2003/5/22安保理決議1483採択により「同盟と国際協調の両立」が可能に

5

5

### 廃棄されていた大量破壊兵器

イラク戦争支持の理由: 「大量破壊兵器があったかどうかではなく、開戦当時、大量破壊兵器を持っていると疑うに足る根拠があった」(99頁)

★「疑惑」は戦争正当化の理由になるのか

⇒アメリカの説明を求められない日本の事情

### 自衛隊、イラクへ

「宿営地の配置、運用にも、自衛隊独自の工夫があった。宿営地内は整然と整頓され、モーター・プールの車両は前後一センチメートルの範囲に頭を揃えて整列駐車していた。〔塩野七生『ローマ人の物語』にローマ軍の野営地が描かれている〕整然と配置された野営地そのものがローマの文明の証であり、「蛮族」への無言の抑止力になっていたという趣旨が書かれている」111頁。

6

6

「私が成功と考える最大の要因は、自衛隊が一発の弾も撃たずに、一人の犠牲者も出さずに任務を終えたことだ」(111頁)。

「イラクの自衛隊は、日本が国家として達成しなければならない目標や防衛研究所で検討していたような「国益」のためではなく、「アメリカとの付き合い」のために派遣されていたことになる。それ自体が目標ということだ。これでは自衛隊員が犠牲になるわけにはいかない」

「犠牲者の問題は、自衛隊がイラクにいる間、私の最大の悩みであり続けた」(116, 117頁)。

7

7

### 「日本版NSC構想」

「「**廃案**」は、私が進言した」「それを法律上の制度にする必要性を感じていなかった」(138頁)。

### 集団的自衛権

「私は、そのような事例〔米艦の護衛、アメリカへ向かうミサイル迎撃〕は**個別的自衛権でも可能**で、それを議論することによって必要な措置がとれなくなる恐れがある、という意見を〔安倍首相に〕述べた」

日本近海での米艦攻撃:「日本有事と認定できるため(略)個別的自衛権によって米艦の護衛が可能であると考えられることを説明した」

Guamやハワイに向かうミサイル:「日本攻撃の一環である可能性が大きく、個別的自衛権の範囲で迎撃可能であることを説明した」(140頁)

8

8

### 倒錯の同盟

日本のイラク戦争支持⇒期待した「よほどのプラス」はなかった

「日本は同盟を維持するために、**イラク戦争が何であれ、それを支持した**」(169頁)

「日米同盟維持以外の戦略的思考の軸を持たない」⇒「日本がアメリカに守ってもらっている」という**負い目**こそが、日本独自の戦略的思考の自由を制約している最大の要因である」(171頁)。

しかしイデオロギー対立ではなく、アイデンティティ(自己認知)対立の時代であるいま、アメリカは「日本を守る」抑止力を提供し続けるだろうか」(174-175頁)

「アメリカの同盟国である日本」というアイデンティティ**以外の自己認知を持たない**ことが決定的なハンディキャップとなる」(179頁)。

9

9

### お尋ねしたい点

- ①「軍部の独走」ではなく「**政治の独走**」をどう防ぐか。文民統制ではなく“文民への統制”は可能なのか。
- ②**派遣先での司法**はどう考えられていたのか。⇒例)任務遂行中に不測の事態に巻き込まれて民間人を誤射
- ③官邸から疎んじられることはなかったのか。⇒国家安全保障会議(2013設置)、集団的自衛権の行使容認(2014閣議決定)
- ④「日米同盟だけに頼らない戦略的思考軸」(179頁)⇒たとえば?
- ⑤「政府原案には、自衛隊が行う支援業務として、輸送・給水・補給・医療のほか、「大量破壊兵器の搜索」があったが、**自民党総務会**の「反小泉」といわれる**大物議員の反対**にあつて、国会提出の段階では削除された」(95頁)。

10

10